

◇特集 「子どもと本をつなぐ人」を支える
◇Topics おとなのための語りを楽しむ会／クリスマススペシャルお楽しみ会

特集

「子どもと本をつなぐ人」を支える

ボランティア・保護者を対象にした図書館での取り組み

子どもと本の出会いには、専門知識のある司書や学校教員ばかりでなく、一般の大人のサポートも大きな役割を果たします。我が子や孫、周りの子どもたちに本を手渡す大人として、学校や図書館のボランティアとして、そんな「子どもと本をつなぐ人」に学習や交流の機会が行き渡れば、子どもたちと本の出会いがより充実することでしょう。今回は主に京都市図書館の子どもの本にかかわる講座のこれまでのいきさつや、参加者が熱心に学んでいる様子を紹介し、今後の発展に向けて考える材料になればと思います。

「読み聞かせ交流会」の8年～左京図書館での試み

けやきが活動を始めた1999年当時、京都市の図書館では、絵本や児童文学についての講座や読書会は開かれていなかった。それまで市や外郭団体が行っているものとしては、教育委員会が主催して1992年までの10年間毎年5回連続講座として開かれていた「子どもの読書のボランティアセミナー」や京都アスニーの<アスニーセミナー>児童文学講座（京都市子ども文庫連絡会企画、2005年まで）があったが、その他は子ども文庫連絡会を始めとする子どもの本に関わる研究会やサークルが開いているものであった。

しかし、2000年子ども読書年・2002年京都市子ども読書活動振興市民会議発足・2004年京都市子ども読書活動推進計画策定といった一連の流れの中で学校のおはなし会で活動するボランティアが急速に増えたこともあり、2003年から京都市子ども文庫連絡会が中央図書館に呼びかけて、両者の共催で京都市図書館全20館を巡回する、学校読書ボランティア対象の「読み聞かせ講座」が始まった。この巡回講座は年4回開かれ2007年度で全館を一巡し「08年度以降は各館年に最低一回は子どもの本に関わる講座を開催する」という申合せを、共催した両者が交わして終了した。

左京図書館では、地域館のトップバッターとして04年にこの巡回の読み聞かせ講座が開かれた。しかしこの形式では各館で5年に1回しか開かれないので、けやきが企画提案し左京図書館が主催して毎年開催する、独自の「読み聞かせ交流会」を2005年から始めた。05年は1回2時間、06年以降は毎年3回以下のようなプログラムで開いている。

- 1回目 講義:「絵本とは、なぜ絵本か」
- 2回目 講義:集団への絵本の読み方・選び方
講義:科学絵本・読み物のブックトーク¹
- 3回目 ワークショップ:各自おはなし会で読みたい本を持ち寄り、1グループ7・8人のグループで読み語りのワークショップ

講義の講師やワークショップのチューターはけやき会員も担当するが、左京図書館の司書さんも毎年必ず2回目の「集団への絵本の読み方・選び方」の講師やワークショップの進行・記録役を担当している。左京図書館の児童サービスが蔵書数や施設に限りがある中で年々工夫され向上しているのは、何人もの司書さんがこの講座を担当した経験が少なからず活かされているのでは、と思っている。

この交流会は、左京区南部の小学校に案内状が送られ、ボランティアの参加は学校単位でまとめて図書館に連絡する形を取っている。初期の頃はボランティアサークルに情報が届かないこともあったが、館長が左京区南部の校長会に出向いてアピールするなど広報に工夫をこらすなどして、毎年12校中8・9校の参加があり、9年のあいだにほとんどの学校が参加した。さらに、読み聞かせ交流会の報告として、講義のレジュメとワークショップで読まれた本のリストを、参加しなかった学校も含め全小学校に送っており、大変喜ばれている。

¹ ブックトークは10年度から、9年度までは参加者間のおはなし会等についての情報交換。1・2回目は10年度より「左京図書館絵本講座」とし、一般利用者にも案内。

左京図書館ではこの他に2003年より週1回木曜日の午前中の1時間半絵本コーナーで「赤ちゃんに絵本を」サポーター活動」も行っている。京都市がこの年から始めた保健センターの生後8ヶ月健診時にボランティアが行っている絵本ふれあい事業に連動し、図書館でその主旨を受け継ぐために始めたもので、ボランティアが、おはなし会形式ではなく、乳幼児の親子連れにマンツーマンで絵本を読んだり本探しのお手伝いをしている。

そして、図書館や学校・保健センター等で活動している子どもの本に関わるボランティアのスキルアップを目指して、けやきが主催し04年4月から月1回絵本学習会も始めた。図書館を会場（図書館階上の会議室）に図書館で団体借り出しで借りた本を使って（当たり前のことですが、当たり前でなかった頃もあるのです）読書会を行っている。取り上げた絵本を全冊その場で読みあって読んでもらう喜びを実感するとともに、内容や作者について、そして絵本を読む際の技術的なことも、様々な活動経験を持つ参加者が活発に意見交換して、楽しくかつ有意義な時間を過ごしている。

ている。

もちろん、これらの講座や学習会・サポーター活動での司書さんやボランティアの経験や参加者の声は、大型絵本のリストなどレファレンス資料の作成や絵本コーナーの書架の配架の工夫などにも反映されている。

先に述べたように、2008年度以降は全ての京都市図書館で毎年読み聞かせ講座が開かれることになっているが、実施の形態は様々である。講座や交流会の内容をより深めるためには、他館の実践を知り学ぶ必要があるだろう。その意味で以下の今年度の左京図書館読み聞かせ交流会の報告に加え、京都市右京中央図書館と京都市北図書館各講座・滋賀県教委主催の学校ボランティアスキルアップ講座の報告を紹介した。京都市図書館の各館が独自に読み聞かせ講座を行うようになって、すでに5年が過ぎている。この辺りで、京都市図書館として、図書館間の情報交換や共通の資料・リストの作成など全図書館の講座の充実を図るための手だてを、ぜひ講じて欲しいものである。

(けやき 永井麻里)

2012年度 左京図書館「読み聞かせ交流会」兼「左京図書館 絵本入門講座（第3回を除く）」

夏休み明けの9月の3日間3回の講座に述べ100人の参加を得て、今年も非常に活気のある講座となりました。どの回もほとんどの参加者がアンケートにびっしりと感想を書いてくださり、みなさんが非常に積極的に講座に参加してくださっている様子がよくわかって、運営スタッフの一員としてうれしい限りでした。参加された方達の感想や意見を次年度の講座に反映させ、より良いものにしたいと思っています。講座各回の主な内容は以下の通りです。

●第1回(9月4日)

えほんたいけん・えほんたんけん

～ことばの世界をたのしもう

講師 中川あゆみさん（名古屋女子大学講師）

講師の絵本・児童文学研究家、翻訳家の中川あゆみさんには、第2回以来毎年、絵本」について、様々な視点から基本を踏まえた非常に興味深い有意義なおはなしをして頂いている。今年度は、「子どもが生まれてはじめて触れる文学の世界」である「絵本の『ことば』」に焦点をあて、「聞いて楽しいことば、喜びを感じることば」に出会える絵本を紹介して下さった。「美しい日本語の世界を子どもたちに伝えるのは私たちおとなの役目」と話された。

●第2回(9月7日)

やってみよう！読み聞かせ

講師 加藤幸子さん（左京図書館司書）

おはなし会で読む絵本の選び方・読み方を、たくさん

絵本を例に話して下さった。読み聞かせについてや本を選ぶ参考になる、ガイドブック・ブックリストなどの図書や雑誌、京都市図書館HPで新着絵本を検索する方法やインターネットの絵本サイトを紹介するリストも配布・説明された。

科学絵本・科学読み物ブックトーク

森とつながって～本の扉から森の奥深くへご案内

講師 島崎真紀子さん（京都科学読み物研究会会員）

小学校4年生対象のブックトーク形式で、生きものと森の関わりについての本から始まり、森のしくみや奥深く分け入った森について書かれた本・さらには海とのつながりについて書かれた本など、木や森についての本を楽しみながらたくさん知ることができた。これらの本は、「子どもたちが『森があったから私たちの現在の暮らしも成り立っている』ということを知るために、ぜひ手に取ってほしい本」と、話された。

●第3回(9月14日)

実践交流～各自子どもたちに読みたい絵本を持ち寄り、

グループに分かれて

今年度は参加者が多く、各グループ7・8人の4グループに分かれて順番に「なぜこの本を選んだか、各学校のおはなし会の様子」などを話した後、その本を読んだ。読み手以外は子どもになって読んでもらう。読み終えた後みんな感想や意見を出し合ったが、次々に意見が出て、80分

程度では足りないグループが多かった。年々本選びの眼が肥え、読み聞かせの水準も高くなっている。最後に全員が集まり各グループの記録係が報告して、分かち合いを行っ

た。「おはなし会でぜひ読んでみたい本にいっぱい出会えた」と、たくさんの感想にあった。

(けやき 永井麻里)

「読み聞かせ・読み語り連続講座」～右京中央図書館の取り組み

右京中央図書館では、2011年から「読み聞かせ・読み語り連続講座」として、9月から翌年2月にかけて毎月1回原則第3木曜日に、6回の講座が開かれている。今年度の各回のテーマは以下の通り。

- 第1回 保護者のための読み聞かせ講座～その1～
(乳児とその保護者対象)
- 第2回 保護者のための読み聞かせ講座～その2～
(幼児とその保護者対象)
- 第3回 読み聞かせ・読み語り活動のポイント、交流会
(学校図書館ボランティア対象)
- 第4回 実践報告、交流会
(学校図書館ボランティア対象)
- 第5回 実践報告、交流会
(学校図書館ボランティア対象)
- 第6回 今年度のまとめ

平成23年度第1回目の6回連続講座は、各回の参加対象者を特に絞らず、会場もすべて研修室で行われたが、「各回の対象者を絞った方が良いのでは」という声があり、今年24年度は、第1・2回は主に保護者対象とし、会場も児童コーナー（おはなしのへや）に変わった。

右京中央図書館と図書館や近隣の2小学校で活動している読み聞かせボランティアグループから成る“UCLib読み聞かせサポート運営委員会”が主催。絵本や読み聞かせについての講義・実演は主にボランティアが担当し、司書は図書館の取り組みや利用の仕方を紹介している。

講座の実際の内容については、以下に掲載する、今年度の第2回の講師である読み聞かせグループ「クローバー」の後藤さん、第3回を受講した山口さん、それぞれの報告を読んでいただきたい。
(永井)

2012年度 右京中央図書館の「読み聞かせ・読み語り連続講座」から

第2回 小さい人向け絵本 を担当して

右京中央図書館の絵本コーナーでは毎週月曜日11時から、赤ちゃんや小さい人向けのおはなし会を開いています。クローバーという名のサークルですが、旧右京図書館の頃からメンバーは入れ代わりながら続いてきました。私も一年ほど前から参加させていただき、抱っこ赤ちゃん、はいはいの赤ちゃんや若いお母さんに楽しく絵本を読んだり、一緒に手遊びをしたりしてきました。3名でしていますので3週間に一回、ほんとに楽しい時間です。

また右京中央図書館では、3年前から地域の学校ボランティアの研修と交流の場を持つてきました。昨年は毎月一回、6回の講座でした。絵本を学ぶという意味で、クローバーのメンバーも講師となって、わらべうたや幼児の絵本についても話す回がありました。この時、学校ボランティアだけでなく子どもさん連れのお母さんの参加がありました。そこで今年は対象をはっきりさせ、1・2回目の乳児・幼児むけのお話は保護者対象としました。いつものクローバーのおはなし会と同じ場所の絵本コーナーで、ベビーカーを横付けにしたり、くつろいだ雰囲気が出来ました。

1回目は、0・1・2歳向け。講師をつとめた村田美登里さんは、たくさんのわらべうたを紹介しながら、世話をすする大人から赤ちゃんに楽しいことばをたくさんかけてあげよう、そしてわらべうたはその助けになること、昔からの子育ての知恵がいっぱい詰まっていることを話しました。語りかけやわらべ歌とおなじに絵本も楽しんで、と絵本もたくさん読んでくれました。

2回目、3・4・5歳向けは私が担当しました。実生活での経験が増えれば増えるほど絵本が楽しくなる、子どもの世界が広がり、友達が増え、ほんとうに生き生きした年齢です、それに答えてくれる絵本がいっぱい、きつとお気に入りの絵本に出会えます、けっして頭でっかちにしないでたくさんの経験を一緒に楽しんでくださいね、と話しました。図書館に展示してもらった本は『本のもり』のリストに載った本です。ゆっくり見てもらう良い機会になりました。

いつもはおはなし会をするだけで、私たちがなぜ赤ちゃんやお母さんにおはなし会の時間を持つているのか、わらべうたや絵本がなぜ良いのかということ改めて伝えることはありません。たまにはこういうお話を聞いてもらう

のもいいな、専門家の先生というほどじゃなくて、先輩おかあさんから、という雰囲気がいいのでは、と思いました。村田さんも私もちょっと緊張しましたが勉強になりました。(右京中央図書館ボランティアグループ「クローバー」・わたぼうし文庫 後藤由美子)

第3回 読み聞かせ・読み語り活動のポイント に参加して

「考え続けるボランティアをめざして」というテーマで講座が開かれました。講師は、右京中央図書館で活動しているボランティアグループのささゆり舎児童文化塾・太田美穂さんでした。まず、学校にボランティアとして入るといことは、大きな信頼を得ているのだから、日々努力をすることが大前提である。そのためには、日々研鑽し、先生との連絡やボランティア同志の交流を図ることが大事である。と、話されました。「大きな信頼を得ている」という言葉に背筋が伸び、直接子どもたちと触れ合うことの責任を改めて感じました。

次に子どもたちの心がハラハラ・ドキドキ・わくわくと働く絵本を選ぶにはどうしたらいいかというお話でした。まず、自分たちが絵本の次のステップである物語をたくさん読み、子どもたちの心がどんなふうに感動するのを感じ取っていくと、自然といい絵本を選ぶ目を養えるようになるということでした。たくさん絵本に触れることが一番と思っていた私にとっては、目から鱗の話でした。古事記や外国の昔話、アーサー・ランサム作

『ツバメ号とアマゾン号』、ジョーン・エイケン作『ぬすまれた湖』などを紹介してくださいました。童心に帰り、是非読みたいと思います!!そして、どういう目で本を子どもたちに伝えていったらいいのか考えたいと思います。

また、今、作家として活躍している方たちは、岩波少年文庫を読んで育った方が多いようです。やはり、昔から読み継がれているものは、心豊かに生きるために力を貸してくれるのだと思いました。数十年前に比べ、子どもを取り巻く環境は激変し、ゲーム・携帯電話・テレビに心を奪われています。そういう状況だからこそ、私たちが本の世界への扉を開ききっかけを作る努力をしたいと思います。

最後に絵本を読みあう交流をしました。事前準備や練習はなく、当日用意していただいた絵本の中から一冊選び、表紙→見返し→本文の始めのページ→終わりのページ→見返し→裏表紙を読むという形で進みました。内容の補足説明をするときもありましたが、本文の始めと終わり以外のページを省略した読みあいは初めての経験でしたが、終わりは、想像通りですつきりしたり、違って面白かったりと、楽しいひとときでした。やはり、絵本は読んでもらうのが一番ですね。

より良いものを求めて、考え続けるボランティアでありたいと強く思いました。

(左京図書館絵本学習会・松ヶ崎小学校読書ボランティア 山口真紀)

北図書館の読み聞かせ講座

京都市中央図書館と京都市子ども文庫連絡会(以後、市庫連と称す)共催の読み聞かせ巡回講座が北図書館で開催されたのを第一回として、今年度12月3日の講座で6回、6年目となります。主催は北図書館、会場提供という立場で紫野児童館(北図書館と同一施設内にある)、にじのこ文庫の3団体で行っています。この3団体で、奇数月第一月曜日に赤ちゃん絵本の会も開いています。

巡回講座終了時に図書館と市庫連で申し合わせた<今後は各図書館で年一回以上開催する>という趣旨を実現するため、にじのこ文庫が北図書館に申し入れたことから、その後の講座開催に関わることになりました。

講師は、北図書館のその年度の児童書担当司書が受け持ち、にじのこ文庫は読み聞かせまたは紙芝居、手遊びなどの実演と、最後の意見交換と質疑応答を担っています。3年位前からは、紫野児童館も読み聞かせなどに参加されています。

年度により対象年齢が異なるため、その年の対象年齢に見合う保育園や幼稚園・小学校の読み聞かせボランティアや有志の方に、図書館が協力を依頼しています。最初のころは、館長が北区の小学校に出向き校長に講座への参加協力を依頼されていたが、最近は市教育委員会主催のボランティア研修講座もあり、今もされているかどうかはわかりません。

まだまだ、本の持ち方その他読み聞かせの基本が行き届いていないと思われるので、このあたりで、何らかの手立てを講じるのが望ましいのでは、と感じています。市内の全図書館で地元の各区毎の小学校ボランティアの読み聞かせ交流会を開いたり、講座用の共通の冊子づくりも、実現したら良いと思います。やはり、着実で丁寧な取り組みが大切なのではないでしょうか。

(にじのこ文庫 三上啓子)

滋賀県教育委員会主催 「子ども読書ボランティア・ステップアップ講座」に参加して

滋賀県教育委員会生涯学習課主催の「子ども読書ボランティア・ステップアップ講座」に参加しました。講義は全6コマ、10・11月の3日間に各日2コマ計160分ずつに分けて開かれました。

講義①：子どもと本をつなぐ役割と意味

講義②：子どもと本をつなぐ役割と責任

～子どもと本を楽しむために

実践①：読み聞かせと絵本の選び方

実践②：ブックトーク

講演：よりよく生きる力としての読書

～絵本の読みあいを中心に」（村中李衣氏）

実践発表会

講演以外の、講義・実践は滋賀県内のいくつかの市立図書館の司書さんたちが担当されました。

「どの本を読もうか。」読み聞かせをするときにいつも悩んでいます。本を選ぶ力を身につけたいと、今回の講座に申し込みました。

「実践①」で、本の選び方の原則は3つ「自分の好きな本」「自分に合う本」「聞き手のことを考える」と話されました。そして、良い手引書を持つことも必要ですと、『えほんのせかい こどものせかい』（松岡享子）、『絵本の本』（中村征子）などを紹介されました。

さらに子どもが喜ぶからと「おやつ」の本ばかりでなく、「ごはん」となる本を選ぶこと。例えば、読んだ時はあまり反応がなかったけど、1年後に再会した時に「えぞまつや！」と子どもが司書さんに声をかけた本、『えぞまつ〜うけつがれるいのちのひみつ』（神沢利子）や、本に興味を持たなかった子も見入った本『わゴムはどのくらいおびるかしら?』（マイク・サーラー）と、これまでの実践の中で選んできた本を紹介してくださいました。

「実践②」では、本の楽しさを届ける方法の1つとして【ブックトーク】の紹介がありました。市町村合併されるまでは、学期に1回学校でブックトークをしていたそうですが、今は年1回だそうです。まず、子どもたちに紹介したい本を選ぶ。『よるのびょういん』（谷川俊太郎）の本を子どもに手渡したいと考え、4年生を対象としたブックトーク【夜の暗やみのなかで】を組み立てていく手順を教えてくださいました。関連するたくさんのお本のなかから本を選び、順番を考え組み立て、シナリオを書いて、時間を計って【ここまできたら、準備は万全。さあ、子どもたちの前へ!】

夜の病院で、働いている人がいます。『よるのびょういん』

夜、遊んでいるのは『ジェニーとキャットクラブ』（アベリル）

夜は恐ろしい目に会うこともある『しまふくろう』（神沢利子）と、テーマにそって本を紹介されました。

村中氏の講演は、子どもがお話を聞く雰囲気になっていない時、お話の入口に子どもを誘う、「くら〜いくらいおはなし」の語りから始まりました。もうすっかり、村中氏のお話の世界に引き込まれてしまいました。

村中氏は児童文学者であり、大学教授、そして、赤ちゃんからお年寄りまで、さらに病院に入院している子どもたちへ「よりよく生きるため」たくさんの読み合いをされています。

「読み聞かせは本の文字を読むのではなく、本の中の【物語の声】に耳を傾けて、読むことです。上手に読むことではなく、幸せな時間を共に過ごせたかどうかを考えてください。」と、『ねこガム』『がたん ごとん がたんごとん』などを読み聞かせてくださいました。

最後の実践交流には学校で活動されている3グループが発表されました。

2人で読み聞かせ『やあ、ともだち!』、語り「チャックリカキフ」パネルシアター「かえるをのんだととさん」まき絵「からすのパンやさん」などを見せていただきました。

「お互い学びつづけ、磨き合う仲間が存在が大切」と言うことがよくわかりました。

「講義①②」では、これまで積み重ねてこられた実践や、自身の子育てに基づいた「子どもに本を手渡す」ことの「役割・意味・責任」を、たくさんのお本を紹介しながら話してくださいました。「子どもに本を手渡すとは、楽しさを分かち合うこと」そして、「絵本を読むということは、抱っこするように言葉でつむむことです。」というお話から、読み聞かせの素晴らしさ・役割を、再確認しました。

読書ボランティアは、学校のお手伝いではなく、「学校に外からの風を送りこみ、子どもの心にエネルギーを吹き込む」という、独自の役割を果たせることも話されました。子どもに本を手渡すことの意味に確信を持って、前へ進んでいけるようなスキルアップ講座でした。

（けやき 田中直子）

けやきの活動 12年7月～12月

- | | | |
|----------|---|---|
| 7/9 | 左京区社協ボランティア連絡会 (増井・永井) | めるつどい」トークセッションの実践報告者の1人として、けやきの活動を報告 (永井) |
| 7/27 | ニュースレターNo.39印刷発送 | |
| 7/下旬～ | 「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打ち合わせ
資料作成・印刷 | 12/9 図書館と共催講演会
「写真家小寺卓矢さんスライド&トーク」 |
| 9/3.7.14 | 「読み聞かせ」交流会の準備・反省会 | 12/3.21 クリスマススペシャルお楽しみ会リハーサル |
| 9/4.7.14 | 「読み聞かせ」交流会
(1・2回は左京図書館絵本入門講座も兼ねる) | 12/22 クリスマススペシャルお楽しみ会
(図書館主催行事には協力) |
| 9月上旬～ | ニュースレターNo.40原稿作成・取材・編集 | |
| 10月～ | 講演会準備
「図書館で発表会」準備 | ・7/28.8/25.9/22.10/27.11/24 (第4土曜)
図書館おたのしみ会に協力 |
| 10/18 | ニュースレター40号の取材のため、ようせい図書室
訪問 (石川・永井) | ・9/28.10/26.11/16.12/7
(第4金曜日、3.7.12月は第2金曜日)
絵本学習会 |
| 11/3 | 久世ふれあいセンター図書館「小寺卓矢さんスライド
&トーク」にて講演会の講師依頼 (永井) | ・7/2.9/3.10/1.11/5.12/3 (原則第1月曜日)
事務局会議 |
| 11/8 | 「小寺卓矢スライド&トーク」「図書館で発表会」
「おとなのための語りを楽しむ会」の案内チラシ・
総会報告印刷・発送 | 図書館とのミーティング |
| 11/26 | ニュースレター40号特集のため右京中央図書館を
取材 (永井) | ・7/5.12.19.26. 8/2.9.23.30. 9/6.13.20.27.
10/4.11.18.25. 11/1.8.15.22.29. 12/6.13.20
(毎週木曜10:30-12:00)
絵本コーナーで「あかちゃんに絵本を」サポーター活動 |
| 12/1 | おとなのための語りを楽しむ会 | |
| 12/8 | 第3回「京都の学校図書館・公共図書館の充実を求 | |

つぶやき...

うん？左京図書館へ行く途中、大型ショッピングセンターの横を通りかかった時のことです。ショッピングセンターの駐輪場、隣接するホテルの駐車場に「パチンコ店建設予定地」の看板が目飛び込んできました。2012年8月下旬のことです。

ショッピングセンターの駐輪場とホテル、そしてその駐輪場を壊してパチンコ店にする話が出ているとか。

「なんで、ここにパチンコ店が？」。そこから左京図書館までは200m余り。ホテルの向いには児童公園。周囲は静かな住宅街です。予定のパチンコ店が面している二つの道路は、二つの公園住宅にも面しています。その上、その道路は近くの小学校(直線距離にして約400mの位置にある)への通学路です。こんな場所にでも、パチンコ店が出店で出来んだ、と不思議な感じがしました。

調べると、青少年の健全な育成を図るため(教育環境の保全のため)、教育環境を阻害するおそれのある建築

等を規制する目的で、パチンコ店等風俗営業を目的とする建築物を規制する条例があります。学校や図書館等の教育文化施設、児童公園などの敷地から200m区域内、また通学路の両側それぞれ20m区域内にそのような建築物を建てることを認めない市もあります。

しかし、京都市は教育文化施設から100m離れていれば、パチンコ店は建てられますし、児童公園、通学路は規制の対象にすら入っていないのです。そうです。京都市ではあの場所にパチンコ店は出店出来るのです。

パチンコ店建設予定地から、左京図書館までの距離は200m余り。直線距離にして300m弱の範囲内に中学校が2校もあります。予定地前の道路はショッピングセンターの買い物客で人通りが絶えません。治安もよいことから、その道路を図書館への行き来に利用されている方も多いのではないでしょうか。パチンコ店が出店することで、図書館を利用する青少年がトラブルに巻き込まれることがなければいいのですが...

青少年が健やかに成長するために望ましい環境とはどのようなものなのでしょうか。また、ひとつ考えなければならぬことが増えたように思います。(会員 吉政)

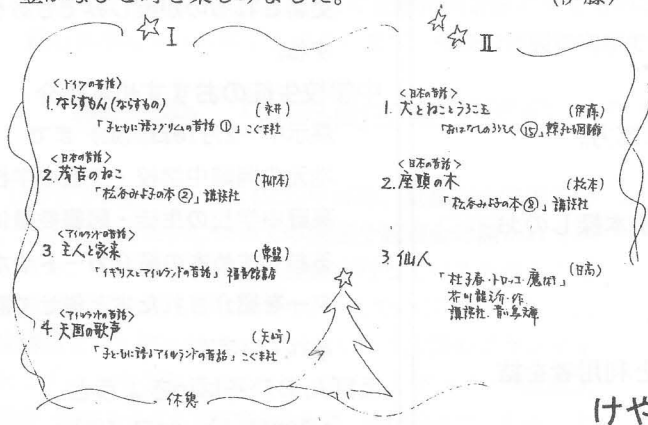
TOPICS

おとなのための語りを楽しむ会

12月1日

「おとなのためのおはなし会」は、「京都おはなしを語る会」の会員が本を見ずに覚えて語るおはなしを聞く会です。毎年開催を楽しみにして下さる方や、初めての方、小学生もたくさん来てくださり、年々参加者が増えています。

昨年(2012)の12月1日のおはなし会でも、忙しい師走の午後、関西弁で語るグリム、芥川龍之介の短編小説、世界や日本の昔話などバラエティに富んだプログラムで、こころ豊かなひと時を楽しみました。(伊藤)



クリスマス スペシャルお楽しみ会

12月22日

12月22日(土) 午前11時~12時 3階会議室で、恒例の「冬のスペシャルおたのしみ会」が行われました。

1部のおはなし会のプログラムは、クリスマスのおはなし「クリスマスってなあに」 大型絵本「もちづきくん」 パネルシアター「かさじぞう」です。

そのあと、みんなで一緒にクリスマスソングを歌いました。今回はボランティアによるギター伴奏もあり、一層楽しい雰囲気になりました。

2部の工作会では「のぼりサンタ」を作りました。折り紙でサンタを作り、たこ糸を引っ張ってのぼらせるものです。

子どもたちは思い思いの顔を描いたサンタを、嬉しそうに何度もスルスルとのぼらせて遊んでいました。

幼児から小学生までたくさんの参加者があり、大変にぎやかなおたのしみ会となりました。(奥坂)

本棚 40

けやきの

私のおすすめの本

ぼくのライオン、みどりいろ

奇跡の画家AKIが見ている世界

AKI & 父・木下 昭著 サンマーク出版 2012年

この本は色々な絵が出てきます。絵の横に書いてあるコメントは絵の様子が書いてあります。絵は、色があざやかで、かわいいです。絵をかいている人は、30種類の緑色を使い分けるといわれています。実際の色ではない色でかかれてるのでとてもオシャレです。読むと、きっと絵が好きになりますよ。(小5・お☆)

はらぺこあおむし

エリック・カール作 偕成社 1976年

あおむしはいつもおなかぺこぺこ。どんどん食べて、ふとちよになって、やがてさなぎになり、ちようちよに変身します。色づかいが美しく視覚的にも魅力的な本ですが、実際にあおむしを育ててみると、絵本のお話そのままであることにびっくりしました。大人も小さな子どもさんも楽しめるすてきな絵本です。(左京図書館・前田淳子)

かわいそうなぞう

土屋由岐雄文 武部本一郎絵 金の星社 1970年

息子たちの母校の読み聞かせの会に入れていただいて半年。まだまだ駆け出しですが、私にとって難しいのはそれぞれの学年に合った本選び。図書館通いを始めました。低学年のために今度選んだのがよく知られたこの絵本。餌をもらえず、やせ細ったゾウたちがねだって芸をする悲しい絵を見て、戦争を知らない子供たちにその悲惨さ、恐ろしさやを伝えられればと思っています。(左京区・H・K)

パラíso・トラベル

ホルヘ・フランコ作 田村さと子訳 河出書房 2012年

美しい恋人レイナに引っぱられ、訳もわからずアメリカに密入国したコロンビアの少年マーロンだが、レイナとはぐれ、N.Y.で1人行き場をなくす。辿り着いたのはあるレストラン、そこで大都会を強く生きる人々と出会う。レイナを探し続け、最後に見つけたものとは。人物が皆魅力に溢れ、少年のストレートな思いが胸を打つ物語。

(下鴨・千日紅)

